

【事故】

令和5年度 富山県道路安全・円滑化検討委員会 事故危険区間関係 説明資料

— 目 次 —

1. これまでの検討経緯	P 1
2. 富山県の交通事故状況	P 4
3. 令和5年度 事故危険区間の解除箇所の選定	P 6
4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所の選定	P11
5. 令和5年度 事故危険区間数	P19
6. 今後の進め方について	P20

令和5年8月25日(金)

1. これまでの検討経緯

(1) 令和4年度の委員会の確認内容(前回)

8月

検討委員会の開催

- ① 令和3年度の意見に対する回答
 - ・ 事故危険区間の登録件数推移
 - ・ 高齢者事故の特徴(富山県)
- ② 最新事故データによる事故危険区間の解除・追加判定
- ③ 今後の進め方

<令和3年度委員からの意見>

- 富山県の高齢者事故は、
どれくらい？
- 何か特徴が見られる？



(2) 令和5年度の委員会の検討内容(今回)

8月

検討委員会の開催

- ① 富山県の交通事故状況
 - ・ 交通事故件数の推移
 - ・ 類型別交通事故件数の推移
- ② 最新事故データによる事故危険区間の解除・追加判定
- ③ 今後の進め方

1. これまでの検討経緯

(3) R4年度の事故危険区間箇所数

- 事故危険区間は、①事故危険箇所、②事故多発箇所、③アンケート抽出箇所の3条件を基に抽出。
- 令和4年度時点で153箇所(国86、県67)を登録。

【富山県事故危険区間の抽出基準】

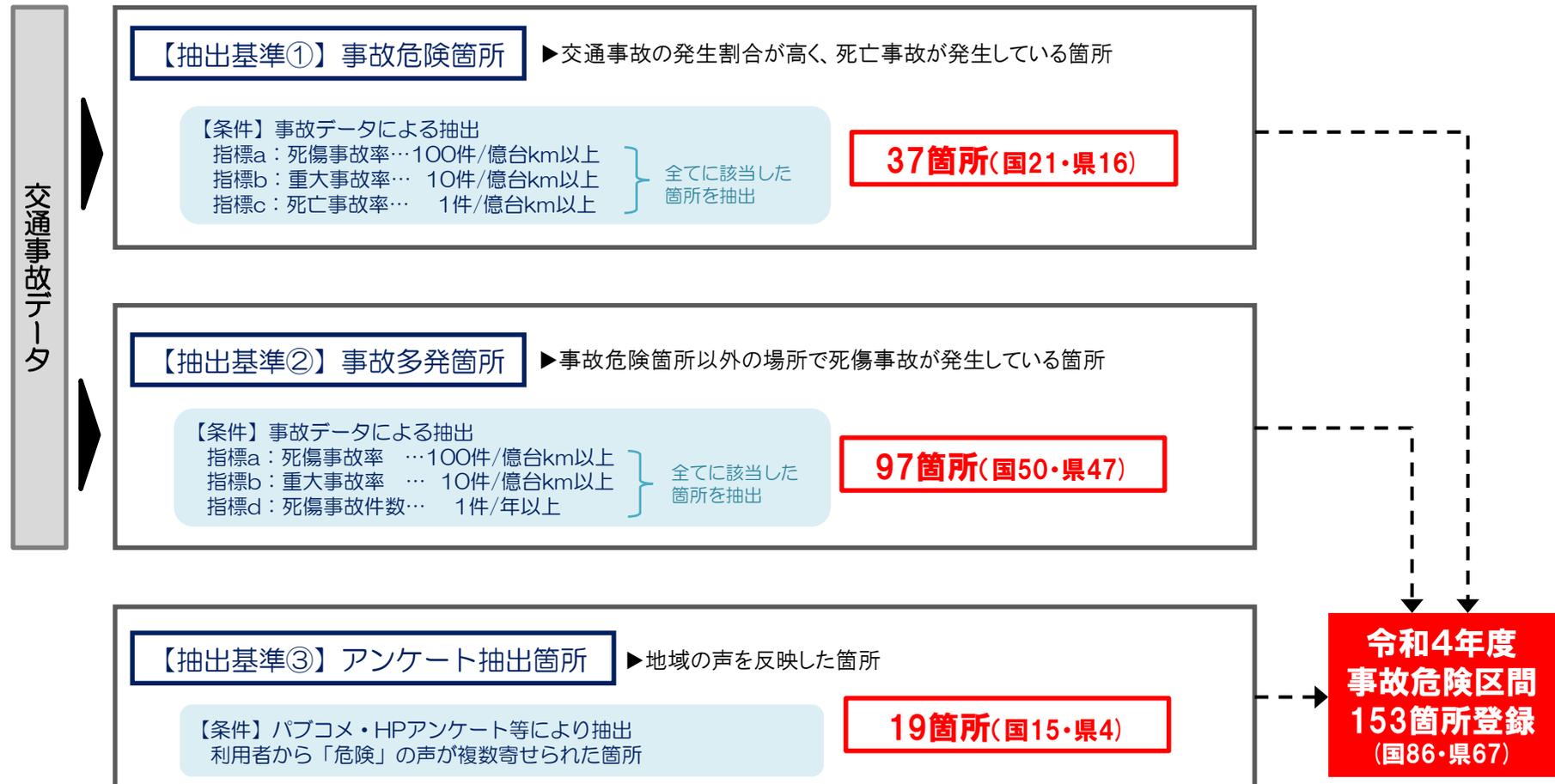


図1-1 事故危険区間抽出基準と登録箇所数

1. これまでの検討経緯

(4) 事故危険区間の解除・追加フロー

- 事故危険区間の解除・追加は、最新事故データで評価し抽出基準の該当状況を整理。
- 平成29年度委員会で承認を受けた「事故危険区間解除・追加フロー」に基づき候補箇所を選定。

【事故危険区間の解除フロー】

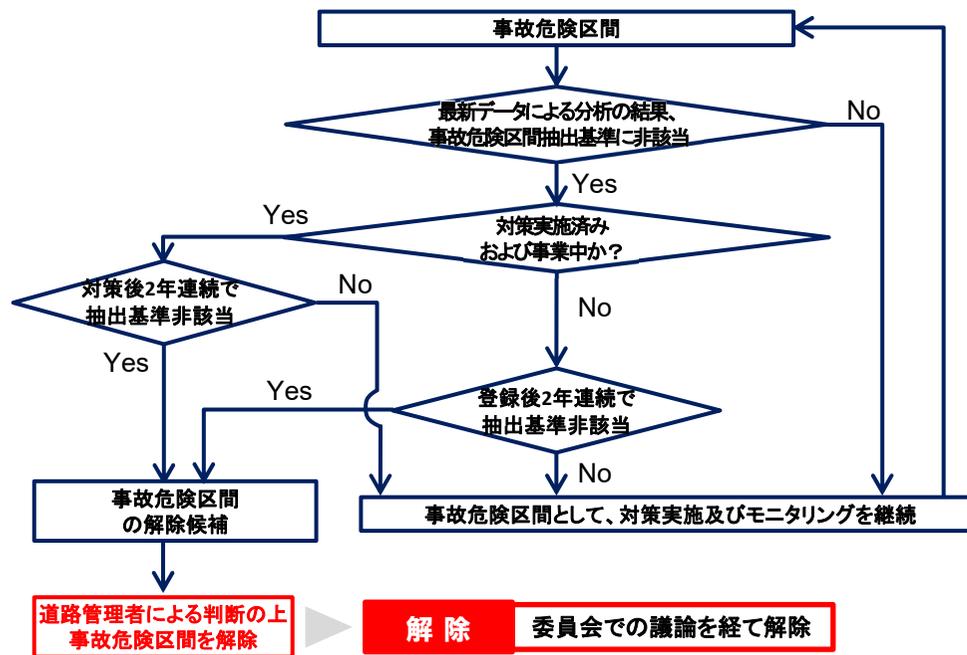


図1-2 事故危険区間解除フロー
(平成29年度委員会にて決定)

【事故危険区間の追加フロー】

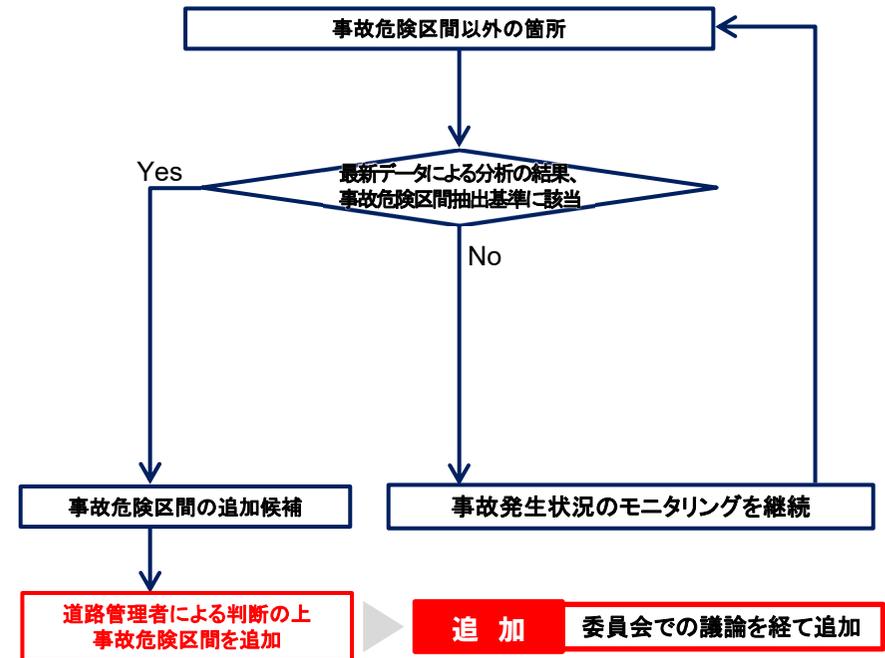


図1-3 事故危険区間追加フロー
(平成29年度委員会にて決定)

2. 富山県の交通事故状況

(1) 富山県の交通事故件数推移

- 富山県、全国ともに交通事故は減少しており、10年で約60%減少しているが、直近3年間は事故減少が鈍化。
- 富山県は全国と比較して単位人口当たりの事故発生件数は少ない。
- 死者数も減少しているものの、減少率は事故件数が約60%減に対し、死者数は約50%減と小さい。
- 富山県は全国と比較して単位人口当たりの事故発生件数は少ないが、死者数が多い傾向。

【10万人当たりの事故件数推移】

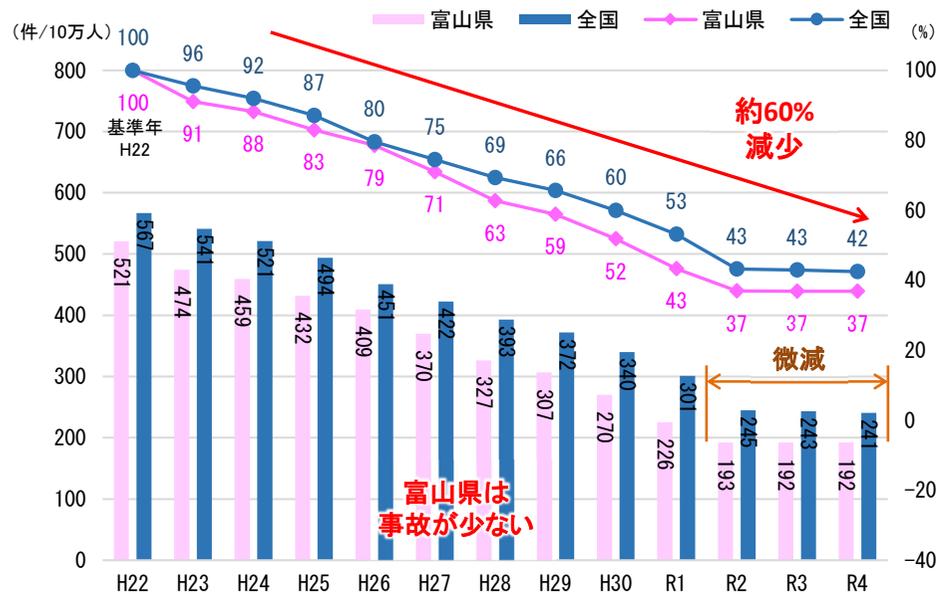


図2-1 人口10万人当たりの事故件数推移 出典：内閣府「交通安全白書(R5)」
富山県警察本部「交通事故白書(R4)」
総務省統計局「人口推計」

【10万人当たりの死者数推移】

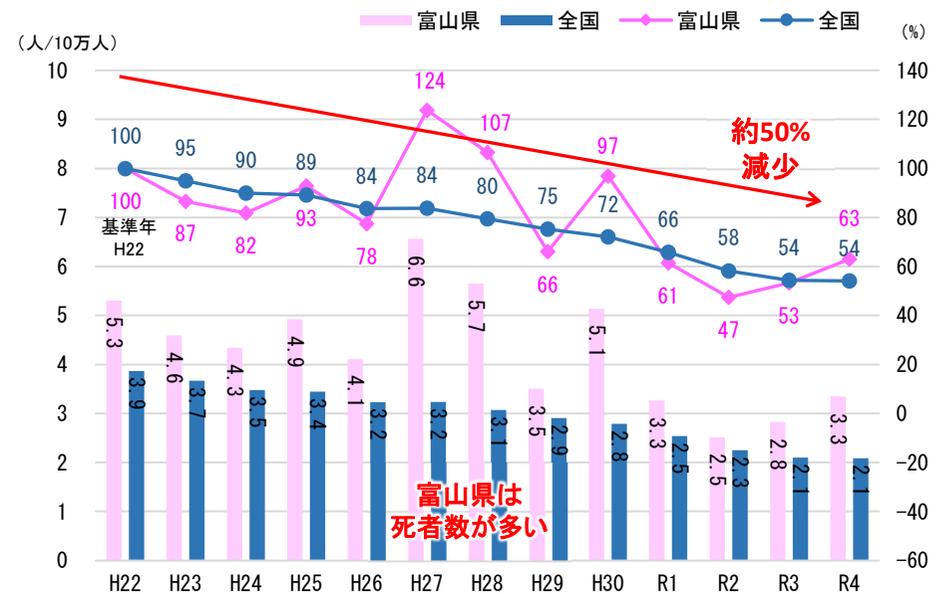


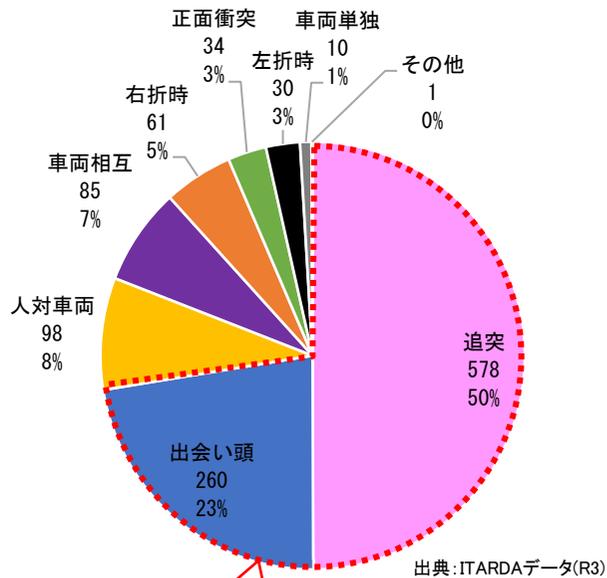
図2-2 人口10万人当たりの死者数推移 出典：内閣府「交通安全白書(R5)」
富山県警察本部「交通事故白書(R4)」
総務省統計局「人口推計」

2. 富山県の交通事故状況

(2) 富山県の類型別交通事故推移

- 事故類型別の割合は追突が約50%、出会い頭が約25%であり、全体の約75%を占める。
- 事故発生位置別では交差点・単路ともに減少しているが、直近3年では交差点の減少が鈍化。
- 交差点は単路と比較して交通事故の減少率が小さい。

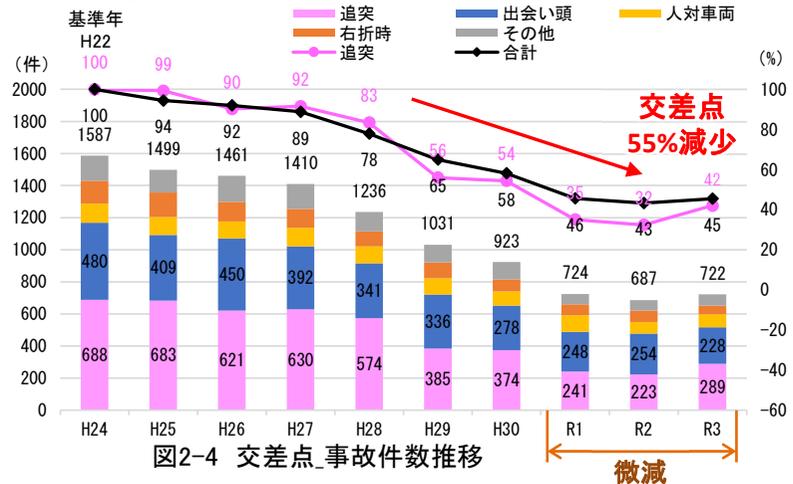
【事故類型別割合】



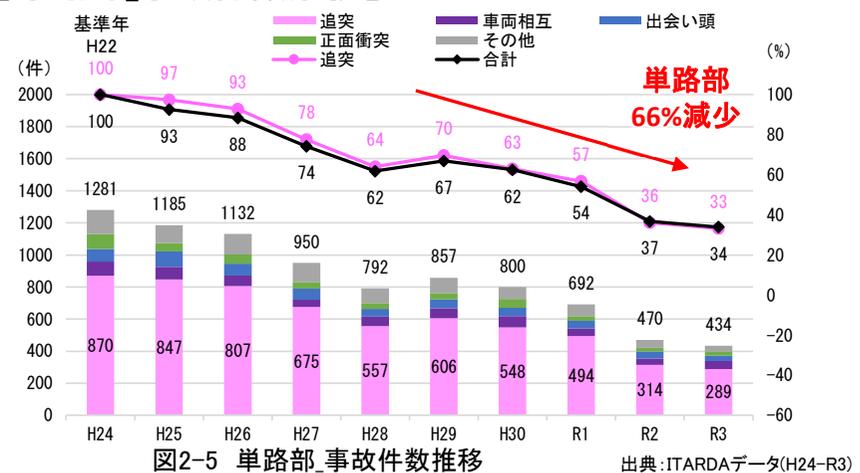
・追突事故
・出会い頭
が多数を占める

図2-3 事故類型割合

【交差点_事故件数推移】



【単路部_事故件数推移】

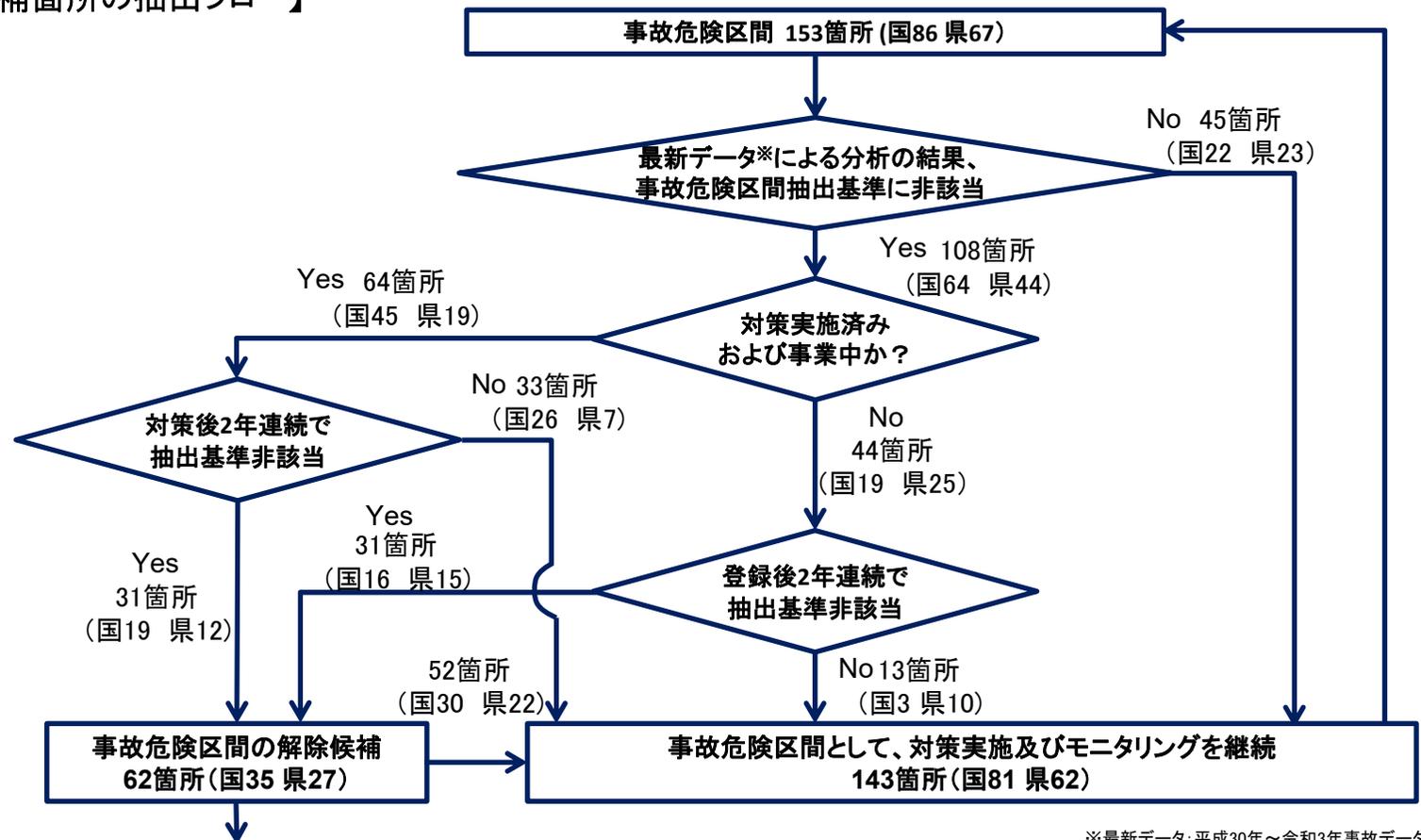


3. 令和5年度 事故危険区間の解除箇所を選定

(1) 解除候補箇所の選定

- 最新事故データ(平成30年～令和3年)による選定の結果、事故危険区間の解除候補箇所は62箇所。
(国管理35箇所、県管理27箇所)
- 解除判定は、道路管理者による判断の上、解除箇所を絞り込み委員会での議論を経て、事故危険区間を解除。

【解除候補箇所の抽出フロー】



※最新データ:平成30年～令和3年事故データ

道路管理者による判断の上
解除候補を10箇所(国5 県5)に絞り込み

図3-1 解除候補箇所選定

3. 令和5年度 事故危険区間の解除箇所を選定

(2) 道路管理者による解除判定結果

- 事故危険区間の解除箇所は、解除候補箇所(62箇所)のうち道路管理者の解除判定基準に基づき、事故の危険性がより低い10箇所(国管理5箇所、県管理5箇所)を選定。

■道路管理者の解除判定基準

[事故危険区間抽出指標]

a:死傷事故率100件/億台km以上
 b:重大事故率10件/億台km以上
 c:死亡事故率1件/億台km以上
 d:死傷事故件数1件/年以上

➡ 最新事故データで事故危険区間の抽出基準が3指標以上非該当の箇所を解除と判定

表3-1 解除箇所

管理	No	市町村名	道路種別	路線番号	地点名	最新事故データ(H30-R3年事故)				対策内容	解除候補抽出フローの判定
						a:死傷事故率(件/億台km)	b:重大事故率(件/億台km)	c:死亡事故率(件/億台km)	d:死傷事故件数(件/年)		
富山河川国道事務所	1	滑川市	国道	8	北野第二交差点	86.64	0.00	0.00	0.75	右折矢印信号設置(H26)	対策後2年連続で非該当
	2	富山市	国道	41	新庄交差点	26.16	0.00	0.00	0.25		登録後2年連続で非該当
	3	高岡市	国道	156	広小路交差点	133.52	0.00	0.00	0.75	隅切りゼブラ帯設置(H25)	対策後2年連続で非該当
	4	氷見市	国道	160	大境～姿	42.32	0.00	0.00	0.25	姿事故対策事業(H27)	対策後2年連続で非該当
	5	氷見市	国道	160	泊	35.59	35.59	0.00	0.25	泊自転車歩行者道整備事業(R1)	対策後2年連続で非該当
富山県管理	6	富山市	県道	1	水橋天神町交差点～水橋中村町交差点	28.73	14.36	0.00	0.50	右折車誘導破線、外側ドットライン(H23)	対策後2年連続で非該当
	7	富山市	主道	9	茶屋町交差点	224.24	0.00	0.00	0.50		登録後2年連続で非該当
	8	富山市	主道	30	永楽町交差点	0.00	0.00	0.00	0.00		登録後2年連続で非該当
	9	富山市	県道	208	牛島本町交差点	71.68	0.00	0.00	0.50		登録後2年連続で非該当
	10	射水市	県道	367	串田新125番地	0.00	0.00	0.00	0.00	「下り坂速度注意」看板設置(R1)	対策後2年連続で非該当

(): 対策完了年

10箇所
解除

3. 令和5年度 事故危険区間の解除箇所を選定

■ 事故危険区間の解除箇所の事例

国道160号 ^{とまり} 泊地先 【抽出基準③：アンケート抽出箇所】

- 事故危険性：歩道が整備されておらず歩行者は路肩を通行しているため、車両との接触事故の危険性が高い。
- 対策内容：自転車歩行者道整備 (R1完了)
- 対策効果：対策後、**死傷事故は未発生**。(選定時 0.5件/年→対策後 0件/年)
- 判定：近年死傷事故も少なく、危険性が低いと考えられるため**事故危険区間を解除と判定**。

《位置図》



※電子地形図25000(国土地理院)に一部追記

図3-3 位置図

《対策》

【対策前】



※写真撮影日：平成29年11月30日

【対策後】



※写真撮影日：令和元年11月26日

図3-4 対策実施の概要

《交通事故の危険性》



図3-5 対策前の現地状況

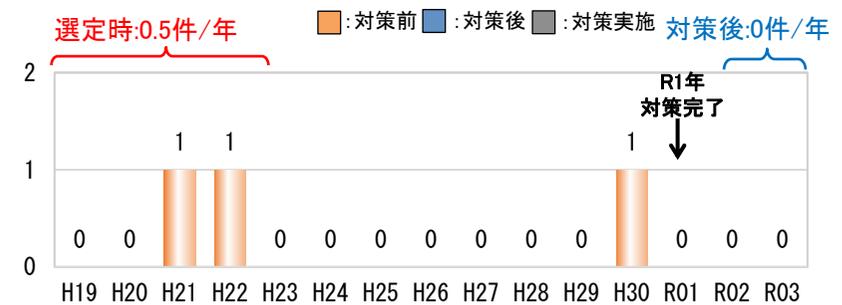


図3-6 死傷事故件数 出典：ITARDAデータ

《判定》

■ 選定時の事故データ

- (平成19年～平成22年)
- ①死傷事故率：29.1件/億台km
 - ②死傷事故件数：0.5件/年

■ 最新の事故データ

- (令和2年～令和3年)
- ①死傷事故率：0件/億台km
 - ②死傷事故件数：0件/年

解除

3. 令和5年度 事故危険区間の解除箇所を選定

■ 事故危険区間の解除箇所の事例

(県) 串田新黒河線 串田新125番地 【抽出基準①：事故危険箇所】

- 事故発生状況：単路区間で横断者の死亡事故が発生。
- 対策内容：標識設置(R1年完了)
- 対策効果：対策後，**死傷事故の発生なし**。(選定時 0.25件/年→対策後 0件/年)
- 判定：近年死傷事故もなく、危険性が低いと考えられるため**事故危険区間を解除と判定**。

《位置図》

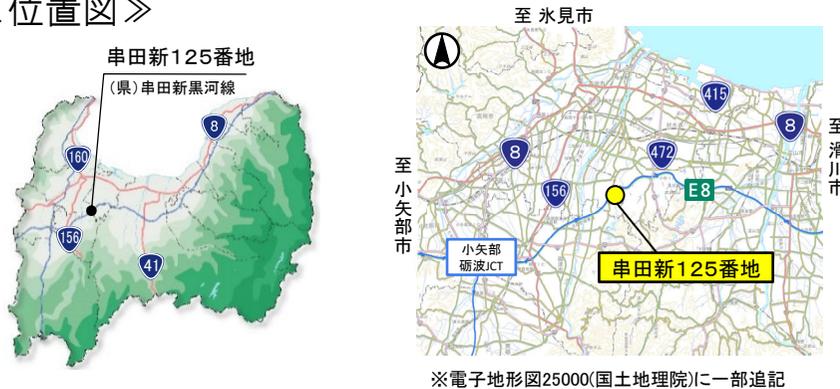


図3-7 位置図

《対策》

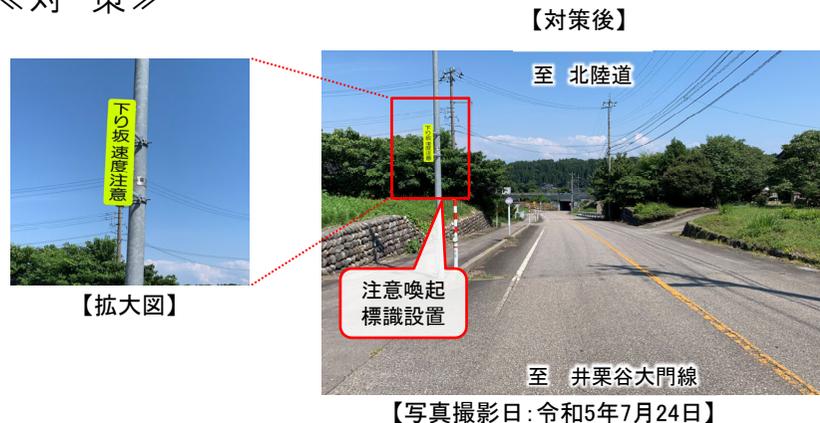


図3-8 対策後の概要

《対策前の事故発生状況》

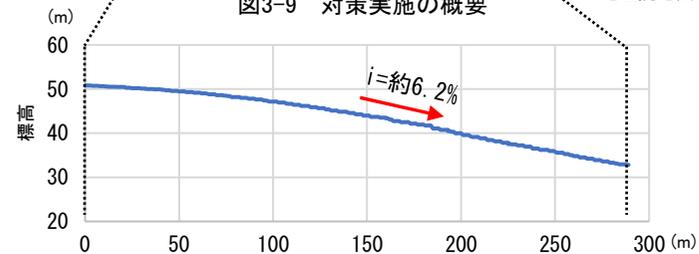
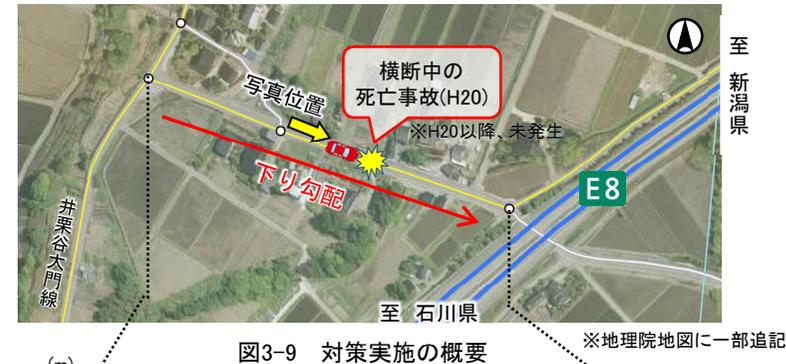


図3-10 縦断面図

出典：地理院地図 断面図作成ツール

《判定》

■ 選定時の事故データ

(平成20年～平成23年)

- ① 死傷事故率：763.1件/億台km
- ② 死傷事故件数：0.25件/年

■ 最新の事故データ

(令和2年～令和3年)

- ① 死傷事故率：0件/億台km
- ② 死傷事故件数：0件/年

解除

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

(1) 追加候補箇所の選定(交通事故データ抽出)

- 最新事故データ(平成30年～令和3年)による選定の結果、追加候補箇所は43箇所。
(国管理4箇所、県管理39箇所)
- 追加判定は、道路管理者による判断の上追加箇所を絞り込み、委員会での議論を経て、事故危険区間へ追加。

【追加候補箇所の抽出フロー】

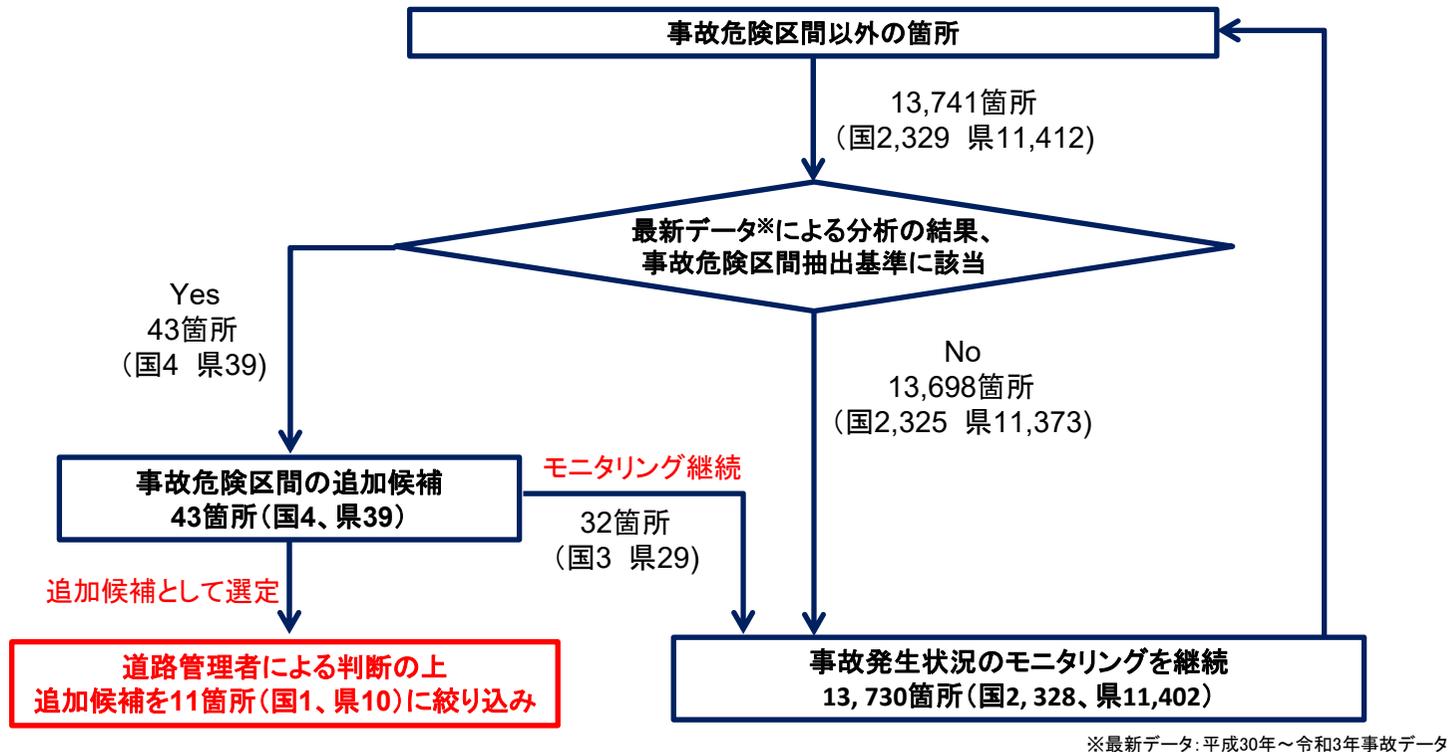


図4-1 追加候補箇所選定

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所の選定

(2) 追加候補箇所の選定(アンケート抽出)

- 地域住民からの要望箇所を「アンケート抽出」として、追加候補箇所を1箇所選定。(国管理1箇所)
- 国道41号、長附交差点に対し地域住民から「信号待ちの歩行者が危険」などの声が複数件寄せられた。

【地域の要望による追加候補箇所の選定】

【抽出基準③】 アンケート抽出箇所

▶ 地域の声を反映した箇所

【条件】 パブコメ・HPアンケート等により抽出
利用者から「危険」の声が複数寄せられた箇所

《地域住民からの声》

住民



<要望>

横断歩道の滞留スペースが狭く、信号待ちの歩行者が車両と接触する危険性が高い。

住民



<要望>

右折車線が無いとため、右折車両を回避するための追い越しや急ブレーキが頻発し危険。

【国道41号 長附交差点】

歩行者の危険を指摘する
意見が複数件寄せられた

長附交差点(1箇所)を
追加候補箇所に選定

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

(3) 道路管理者による追加箇所選定結果

- 追加候補箇所のうち事故対策の優先性が高いと判定した12箇所を選定。

表4-1 追加選定箇所

管理 事務所	No	市町村名	道路 種別	路線 番号	地点名	死傷事故件数						該当基準
						死傷事故件数				H30-R3 死傷事故数 (件/年)	H30-R3 死傷事故率 (件/億台km)	
						H30	R1	R2	R3			
富山河川 国道事務所	1	富山市	国道	41	市民病院前交差点	1	3	1	2	1.75	129.3	事故多発箇所
	2	富山市	国道	41	長附交差点	0	0	0	1	0.25	50.0	アンケート抽出
富山県	3	富山市	国道	359	東下轡田交差点	0	3	1	2	1.50	138.4	事故多発箇所
	4	富山市	国道	415	岩瀬スポーツ公園前 交差点	0	1	1	3	1.25	193.0	事故多発箇所
	5	射水市	国道	472	下条新(南)交差点	1	1	0	2	1.00	163.1	事故多発箇所
	6	高岡市	主要 地方道	24	江尻地先(単路)	3	3	3	1	2.50	142.3	事故多発箇所
	7	富山市	主要 地方道	44	呉羽町交差点 ～呉羽小学校口交差点	2	2	1	2	1.75	100.1	事故多発箇所
	8	富山市	主要 地方道	56	鶯坂交差点	1	1	3	2	1.75	228.0	事故多発箇所
	9	高岡市	主要 地方道	64	高岡美幸町郵便局前	1	1	2	1	1.25	126.0	事故危険箇所
	10	富山市	主要 地方道	69	二口町交差点	0	1	1	2	1.00	164.2	事故多発箇所
	11	富山市	県道	172	豊田本町1丁目交差点	1	0	1	2	1.00	160.9	事故多発箇所
	12	富山市	県道	172	上赤江住宅前交差点周辺	4	4	4	2	3.50	157.7	事故危険箇所

12箇所選定

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

■ 事故危険区間の追加箇所位置図

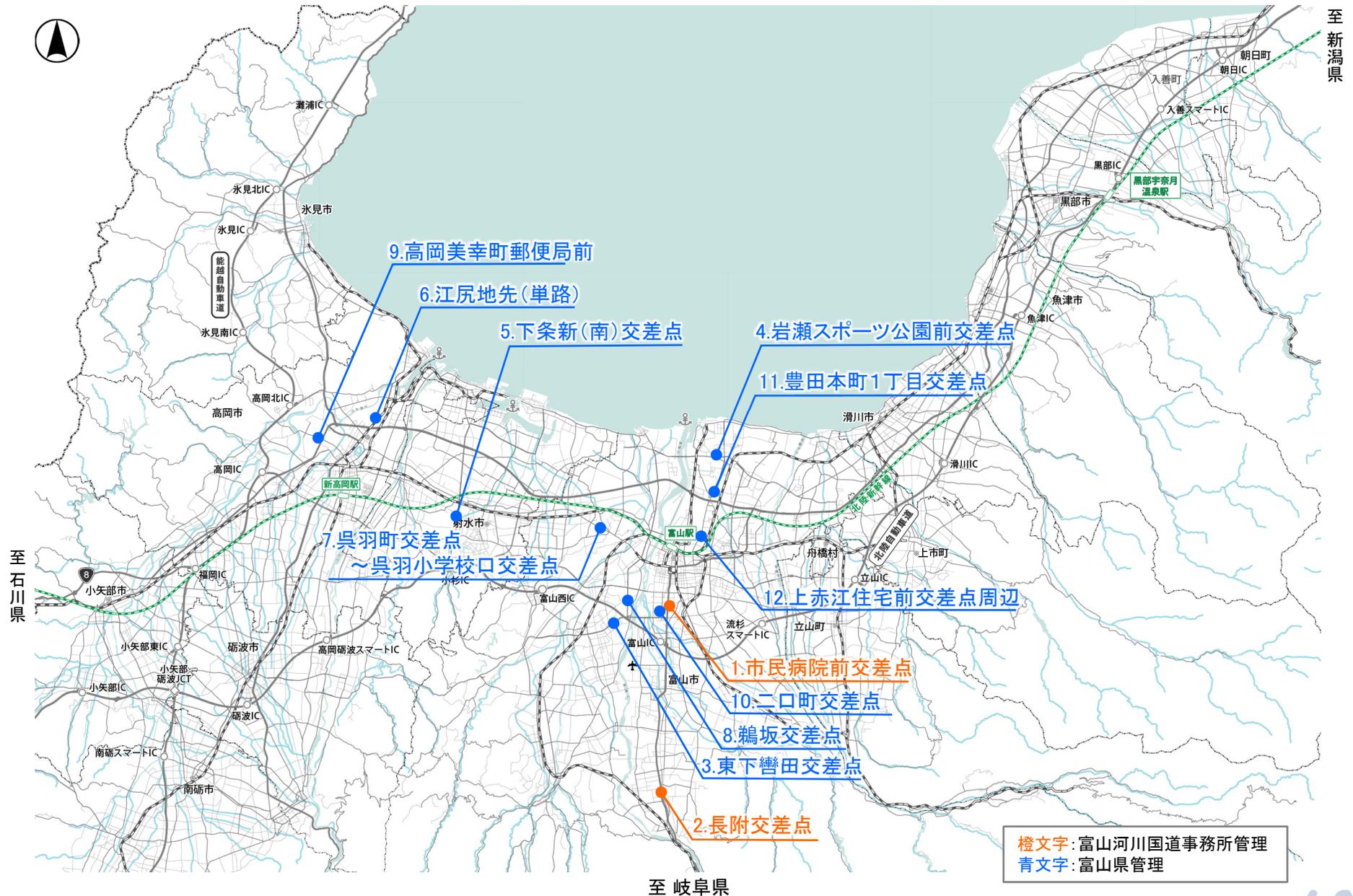


図4-2 事故危険区間追加箇所位置図

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

■ 事故危険区間の追加候補箇所の事例

国道41号 市民病院前交差点 しみんびょういんまえ 【抽出基準②：事故多発箇所】

- ① 市民病院前交差点は、近年死傷事故が多発しており、最新事故データで事故危険区間抽出基準に該当。
- ② 停止線手前での追突事故が多発している他、交差点内での右左折事故や正面衝突事故が発生。

《位置図》

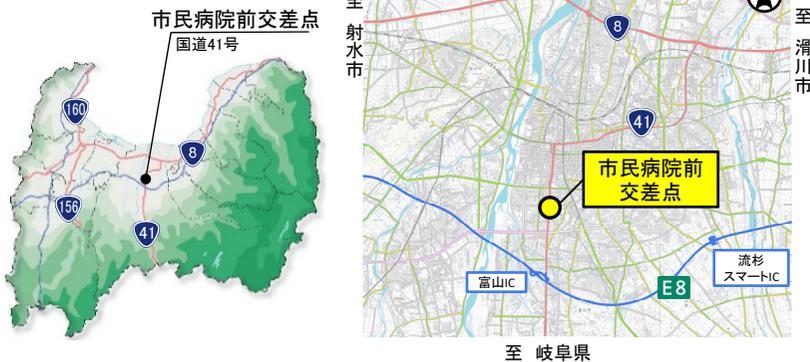


図4-3 位置図 ※電子地形図25000(国土地理院)に一部追記

《事故発生状況》

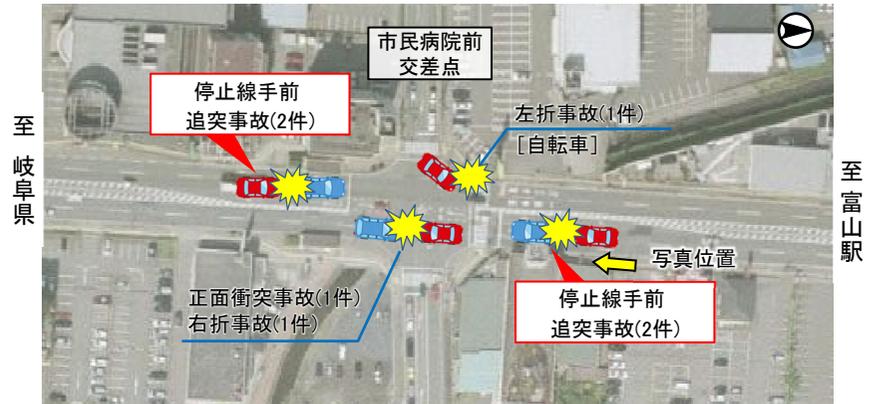


図4-5 事故発生状況 ※上記：H30～R3年死傷事故データ(選定時データ) ※地理院地図に一部追記

《死傷事故件数》

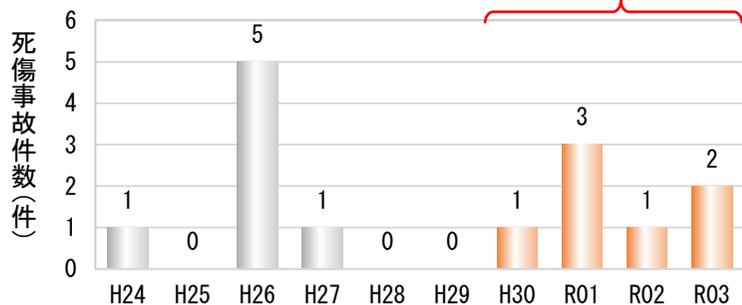


図4-4 死傷事故件数

■ 抽出基準 (市民病院前交差点の事故データ)

- ① 死傷事故率: 129.3 件/億台km
- ② 重大事故率: 36.9件/億台km
- ③ 死亡事故率: 0件/億台km
- ④ 死傷事故件数: 1.75件/年

事故危険区間
抽出基準該当

出典:ITARDAデータ(H30～R3年事故データ)



【撮影日】令和5年7月25日

図4-6 現況写真

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

■ 事故危険区間の追加候補箇所の事例

国道41号 ^{ながつき}長附交差点 【抽出基準③：アンケート抽出箇所】

- ① 長附交差点は死傷事故が発生しており、地域住民からは「歩道が狭く危険」などの声が複数寄せられている。
- ② 停止線付近で右折車両の停止などに伴う交差点内での出会い頭事故が発生。

《位置図》



図4-7 位置図 ※電子地形図25000(国土地理院)に一部追記

《事故発生状況》



※地理院地図に一部追記

図4-8 事故発生状況

《地域住民からの声》

住民



<要望>

横断歩道の滞留スペースが狭く、信号待ちの歩行者が車両と接触する危険性が高い。

住民



<要望>

右折車線が無いので、右折車両を回避するための追い越しや急ブレーキが頻発し危険。

➡ **利用者から複数の「危険」の声**



【撮影日】令和5年6月15日

図4-9 現況写真

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

■ 事故危険区間の追加候補箇所の事例

ひがししくつわだ

国道359号 東下轡田交差点 【抽出基準②：事故多発箇所】

- ① 東下轡田交差点は、近年死傷事故が多発しており、最新事故データで事故危険区間抽出基準に該当。
- ② 交差点内で右折事故や出会い頭事故、追突事故が多発。

《位置図》



図4-10 位置図 ※電子地形図25000(国土地理院)に一部追記

《事故発生状況》

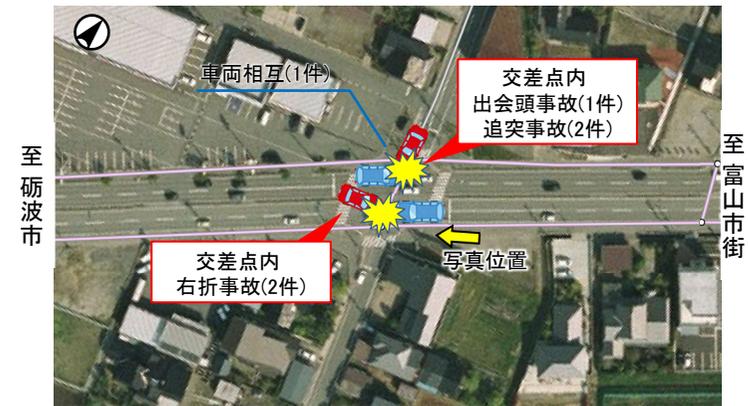


図4-12 事故発生状況 ※地理院地図に一部追記

《死傷事故件数》

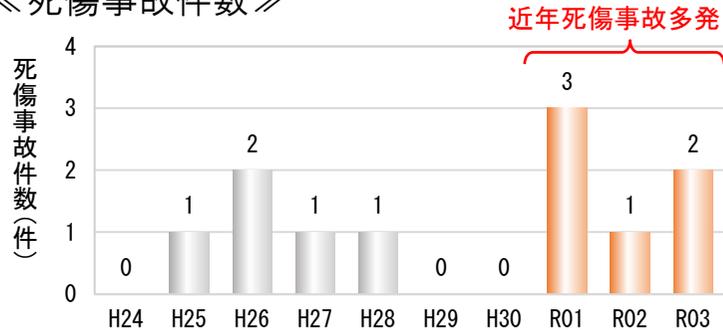


図4-11 死傷事故件数 出典:ITARDAデータ

■ 抽出基準（東下轡田交差点の事故データ）

- ① 死傷事故率: 138.4 件/億台km
- ② 重大事故率: 46.1 件/億台km
- ③ 死亡事故率: 0 件/億台km
- ④ 死傷事故件数: 1.5件/年

事故危険区間
抽出基準該当

出典:ITARDAデータ(H30~R3年事故データ)



【撮影日】令和5年7月5日

図4-13 現況写真

4. 令和5年度 事故危険区間の追加箇所を選定

■ 事故危険区間の追加候補箇所の事例

とやまかんじょう うさか 富山環状線 鶺坂交差点 【抽出基準②：事故多発箇所】

- ① 鶺坂交差点は、近年死傷事故が多発しており、最新事故データで事故危険区間抽出基準に該当。
- ② 停止線手前で追突事故が多発しており、交差点内では出会い頭事故などが発生。

《位置図》



図4-14 位置図 ※電子地形図25000(国土地理院)に一部追記

《事故発生状況》

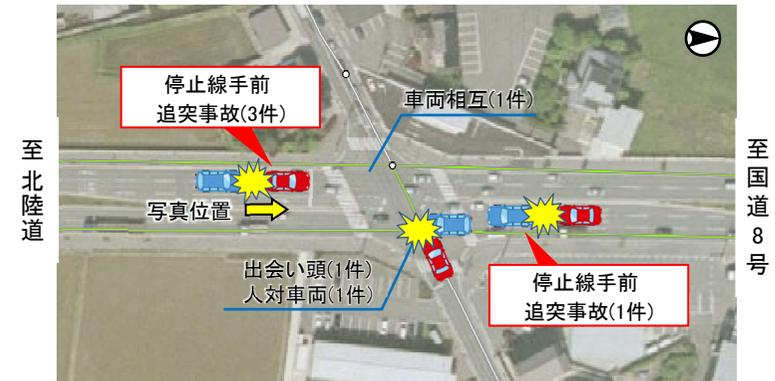


図4-16 事故発生状況 ※地理院地図に一部追記

《死傷事故件数》

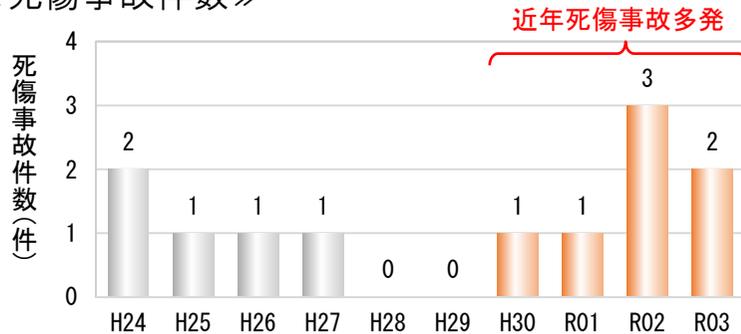


図4-15 死傷事故件数 出典:ITARDAデータ

■ 抽出基準 (鶺坂交差点の事故データ)

- ① 死傷事故率: 228.0 件/億台km
- ② 重大事故率: 65.2 件/億台km
- ③ 死亡事故率: 0 件/億台km
- ④ 死傷事故件数: 1.75 件/年

**事故危険区間
抽出基準該当**

出典:ITARDAデータ(H30~R3年事故データ)



【撮影日】令和5年7月5日

図4-17 現況写真

5. 令和5年度 事故危険区間数

■ 令和5年度事故危険区間まとめ

- 令和4年度事故危険区間登録箇所(153箇所)のうち10箇所を事故危険区間から解除。
- 新たに国道41号市民病院前交差点等の12箇所について事故危険区間へ追加登録。
- 令和5年度事故危険区間として155箇所を登録。(153箇所-解除10箇所+追加12箇所)

【令和5年度事故危険区間数】

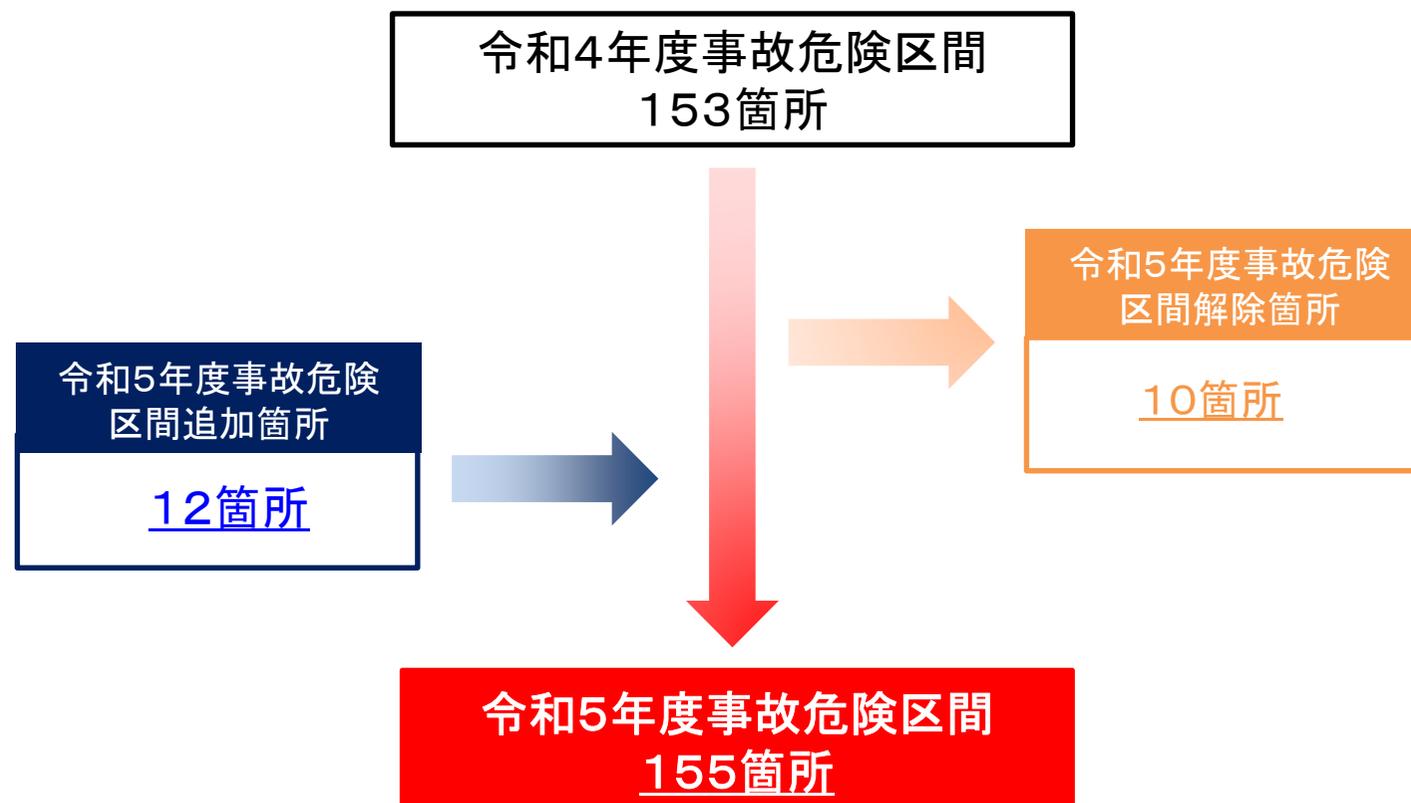


図5-1 令和5年度事故危険区間数

6. 今後の進め方について

■ 今後の検討委員会の進め方

令和5年度 検討委員会（今回）

- ①富山県・全国の交通事故状況
 - ・交通事故件数の推移
 - ・類型別交通事故件数の推移
- ②最新事故データによる事故危険区間の解除・追加判定
- ③今後の進め方

令和5年度事故危険区間の公表

- ・ 事故危険区間の更新結果

次回検討委員会の開催